

牧師所感： 悪の力の優勢

旧約聖書 列王上 21 章 1 節～16 節に次のような物語を読むことが出来る。筆者は聖なるストーリーとして読み、自分の生き方の反面教師として読んでいる。

物語の内容は ユダヤの国、北王国である サマリア王国での物語である。時は BC 869 年～850 年、アハブ王が 国の政治を司った時代である。

この国の王 アハブは、シドン人の王 エドバアルの娘 イゼベルを妻と迎え 王妃としていた。イゼベルは 気性が激しく、王を唆して ユダヤ人の神 ヤハウェを退けて、その代わり ユダヤが忌み嫌う偶像バアルを 神として取り入れた。なお彼女は、自分が王国の王の妻という地位を利用して、悪の限りを尽くして ヤハウェの神官達を殺した。それのみではなく、官邸の隣に 夫アハブ王の欲しがった 隣人ナボトの 所有するブドウ畠があった。そのブドウ畠を手に入れようと アハブ王は所有者と交渉したが、ナボトが先祖伝来の畠を売る気はない と言って 拒絶した。その経緯を聞いた妻イゼベルは、夫に代って、自分が交渉して畠を買ってあげましょう と言って 夫王を慰めた。イゼベルは政府の高官達に 王の印を盗用して手紙を送った。

聖書は 次のように記述している。

「イゼベルはアハブの名で手紙を書き、アハブの印を押して封をし、その手紙をナボトのいる町に住む長老と貴族に送った。 (略)

長老と貴族たちは イゼベルが命じた通り すなわち彼女が 手紙で彼らに書き送ったとおりに行った。彼らは断食を布告し、ナボトを民の最前列に座らせた。ならず者も二人来てナボトに向かって座った。ならず者たちは民の前でナボトに対して証言し、『ナボトは神と王とを呪った』と言った。人々は彼を町の外に引き出し、石で打ち殺した。彼らはイゼベルに使いを送って、ナボトが石で打ち殺されたと伝えた。イゼベルはナボトが石で打ち殺されたと聞くと、アハブに言った。『イズレエルの人ナボトが、銀と引き換えにあなたに譲るのを拒んだあのぶどう畠を、直ちに自分のものにしてください。ナボトはもう生きていません。死んだのです。』アハブはナボトが死んだと聞くと、直ちにイズレエルの人ナボトのぶどう畠を自分のものにしようと下って行った。」 (列王記上 21：8～16)

さてナボトの畠はアハブ王の所有となったが、義なる神はその悪事を容赦しなかった。神は預言者エリヤをアハブに遣わして、その悪事の故に、神の審判の死を宣告した。

アハブ王はへり下り 神の前に罪を告白した。神はそのへり下りによって、アハブの生前には彼を生かしておられた。神は悪をもって神を怒らせたイゼベルを死をもって報いられた。

おわりに筆者は、韓国の 尹錫悦 大統領閣下の弾劾の裁判の 無罪の為 祈っている。韓国が共産主義にならない為に、主なる神よ 韓国を、尹錫悦 大統領を 祝し給え！